

——特集にあたって——

人間は知覚情報の約80%を視覚から得ており、この重要な視覚を担う感覚器が“眼”です。また昔から「目は口ほどに物を言う」や「目先が利く」、最近では「目ヂカラ」などと言い習わされていることからわかるように、われわれにとって“眼”はとても身近な存在でもあります。

ところが、この“眼”には健康を脅かすさまざまな疾患があります。そのなかには結膜炎やドライアイといった比較的よく耳にする病気もありますが、緑内障やぶどう膜炎、角膜潰瘍など、何となく耳にしたことはあるけれども詳しくは知らない、放置すると失明に至る怖い病気もあります。そしてこれらの眼疾患の治療の主役は点眼剤になります。さて、実はこの点眼剤、最新の科学技術の結晶であることをご存じだったでしょうか。

今回の特集は、“眼とくすり”です。執筆はわが国を代表する点眼剤のエキスパートである薬剤師の先生方と、臨床経験豊富な第一線の眼科専門医の先生方に依頼しました。

最初に「見てわかる眼のしくみ」として、眼球の構造とものを見るしくみ、患者さんからよく聞かれる眼によい食べ物や習慣、そして気になる眼の症状などを解説しています。

次に「1滴に込められた点眼剤のワザとヒミツ」として、点眼剤はどのようにして効果を発揮するのか、なぜさし心地に違いが生じるのか、な

ぜ添加剤が必要なのかなどについて科学的側面から解説し、さらに重要な点眼指導について、知られざる患者さんの点眼操作の実態や点眼指導の実践について薬剤師と実地医家の立場から説明しています。

最後に「用語解説！ 眼や視覚に現れるくすりの副作用」として、薬剤師が知っておくべき経口剤や点眼剤の重要な副作用について詳しく解説しています。

本特集を通読いただくと、“眼とくすり”に関する実践的な最新知識が得られ、明日からの業務や患者さんのケアに役立つこと請け合いです。

まさに「目からウロコが落ちる」一冊です。

愛媛大学医学部 眼科学教室 准教授

溝上 志朗